

【熊本県納税貯蓄組合連合会会長賞】

お金の重みと社会のありがたみ

合志市立合志中学校

三年 山本 ゆかり

私は社会科の授業で「税金」について学びました。最初は税金と聞くと「お金を取られるもの」というイメージしかありませんでした。でも調べてみると、税金は私たちの生活を支えるためにとても大切な役割を果たしていると分かりました。そして、税金にはいろいろな「重み」があることに気づきました。

まず一つ目は「生活を守る重み」です。私たちが通う学校の教科書や机、道路や公園、消防車など、身近なものの多くは税金で支えられています。もし税金がなくなつたら、安心して勉強したり、暮らしたりすることができないかもしれません。普段あたりまえのように利用しているものの裏に、税金の力があることを知りました。

二つ目は「負担の重み」です。税金は大人たちが働いて得たお金から納めています。自分が苦労して手に入れたお金を手放すのはきっと簡単ではないと思います。それでも家族や社会を守るために払っていると考えると、大人たちの責任の重さを感じます。父や母が毎日働いているのも、私たちの生活を守るだけでなく、社会のためにもなっているのだと思うと、ありがたいと感じました。

三つ目は、「未来をつくる重み」です。税金は今だけでなく、未来を支えるためにも使われています。災害からの復興や、環境を守る活動、医療や福祉などは、将来の安心につながります。今を生きる人たちが税金を負担することで、これから社会が良くなっていくのだと思います。私はこのことを知り、税金は大人だけの問題ではなく、私たちの未来にも深く関わっているのだと実感しました。

税金には、生活を守る重み、負担の重み、未来をつくる重みがあります。それぞれの重みを考えると、ただのお金ではなく、私たちの暮らしと未来を支える大切な柱のように思えます。私はまだ中学生で税金を納める立場ではありませんが、大人になつたらその重みをしっかりと受け止められる人になりたいです。そして今は、税金で支えられている生活に感謝しながら勉強をがんばり、将来社会に役立てるように成長したいと思います。